

(再開 午後1時55分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

4番 山本隆樹 議員。

(「はい、議長。4番。」の声あり)

(4番 山本隆樹 議員 登壇)

1. 木島平村第7次総合振興計画について

4番 山本隆樹 議員

それでは、通告に基づき3点質問させていただきます。

1点目「木島平村第7次総合振興計画について」です。

2015年から2024年の10年間の第6次総合振興計画が終了する。あと1年で終了です。

第7次総合振興計画策定方針が示されました。

今後、木島平村における自主・自律の村づくりを改めて考えたとき、村民と村が将来像を共有し、その実現に向けて、村民・区・企業・団体など多種多様な参加と協働により、総合的かつ計画的に村づくりを進めることの重要性は、今まで以上に高まる。木島平村の計画行政における中心的な役割を担う計画として、令和7年度を初年度とする木島平村第7次総合振興計画を策定するとしています。まさに、これから更なる少子化・高齢化社会を見据えて、今後の大切な7次総合振興計画となります。

そこで質問いたします。

1番、平成27年度から令和6年までの10年間の期間とした第6次総合振興計画「これからの農村を生きる～みんなで楽しみを作り出す村～」をスローガンとして取り組んでいった評価・検証をどう捉えているのか、質問させていただきます。

2番目、令和7年度を初年度とする総合振興計画の策定方針。第6次総合振興計画の評価・検証を踏まえてどう取り組まれるのか、お聞きしたいと思います。

3番目として、総合振興計画の中で地区づくりの計画の策定が挙げられ、26地区が主体となって策定するとしています。人口減少やライフスタイルの多様化で、地域社会の維持そのものが難しくなっている時代、役割が改めて問われています。日本一公民館が多い県、村・人づくり、場づくりをして学び合う文化が残っています。

6月に村民スポーツフェスティバル、10月に村民運動会に代わるイベントとして、村民スポーツチャレンジデーが行われました。

村との対話、「地区づくり懇談会」の開催等、区民の参加の状況から、また、災害の防衛、また、災害からの復興など、大きなテーマが出たときに必要性が再認識されると思います。この「地区づくり」計画に向け、認識と期待を伺いたい。

以上です。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

それでは、「第7次の総合振興計画について」というご質問であります。

最初に「どういうふうに評価・検証するか」ということではありますが、平成27年4月から令和7年3月までを計画期間とする第6次総合振興計画は「これからの農村を生きる～みんなで楽しみを作り出す村～」というスローガンにしまして、その中に「そだてる・つくる・まもる・つなげる」を4つの基本目標として、29の施策とそれに紐づく107の取組を行ってまいりました。

「そだてる」では、子育てや教育環境の充実、健康福祉の向上に進めてまいりましたが、出生数については厳しい状況にあり、更に取り組を強化していかなきゃならないと考えております。

道路や公共施設のインフラ整備、災害に強い村づくりは、ほぼ計画どおり進んでいますが、今後も継続が必要と考えます。

「つくる」では、情報通信の整備や活用、移住定住の促進などで成果があったと考えますが、農業の6次産業化は現時点では難しい状況であります。また、第三セクターについては、経営改善を目指しましたが、民間化ということで村財源の軽減を図りながら、外貨の獲得を目指すこととしました。コロナ渦で商業は厳しい状況でしたが、交付金等を活用しながら村内消費の拡大を目指しております。

「まもる」では、未利用資源による再生可能エネルギーの活用などにも取り組んでおります。ごみの減量化やリサイクルは今後も継続して取り組んでまいります。

「つなげる」では、集落の維持のため集会施設の建て替え支援やコミュニティ助成により、お祭りなどを支援してまいりました。役場庁舎については、防災や活動拠点として建て替えることができました。また、保・小・中・高、社協、老人クラブなどの交流を促進する地域連携コーディネーターを置くことで、様々な交流事業が始まっております。大学との連携についてはコロナ渦で縮小しましたが、今後再開し、若者のアイデアを生かした村づくりをしたいと考えております。

具体的に成果のあったもの、継続が必要なもの、更に大きな課題となってきているもの、また、新たな課題など様々あります。それらを検証し、第7次に生かしていきたいと考えております。

具体的なものについては、総務課長に答弁させます。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、村長の答弁に補足してお答えします。

1点目の「評価・検証について」でございますが、令和7年4月開始を予定しています第7次総合振興計画の策定準備は、令和4年10月に実施しました村民アンケートに始まっております。今年度に入ってから、村内10団体からヒアリング・意見聴取を実施してまいりました。

いずれも、第6次総合振興計画での施策の取組に対しての評価、そしてご意見をいただいております。今後、第7次総合振興計画を策定するうえで、貴重なご意見として参考にさせていただく予定でございます。

2点目の「総合振興計画の策定方針」でございます。

第7次総合振興計画策定にあたっては、先ほど申し上げました村民アンケートやヒアリングを踏まえて策定を進めてまいります。期間ですが、昨今の時代の変化のスピードに対応するよう、令和7年4月から8年間と短縮をしております。

策定体制については、主任・主査クラスの若手職員を含めた総合振興計画庁内策定委員会を設置し、計画の策定に係る情報の収集や分析、調査、検討を行ったうえで、村内各種団体から推薦された委員と公募委員の皆さんを加えた総合振興計画策定委員会を設置してまいりました。第1回の委員会は既に開催しており、第6次総合振興計画の29施策を単位として、評価・検証と今後の取組方針を確認したところでございます。

今後、3月下旬の素案策定を目標に、順次進めていく計画となっております。

3点目についてでございますが、地区づくり計画は策定方針では、地区における将来像と、それを実現するための地区づくり事業を示すものとして策定することとしています。計画の期間は、令和7年4月を開始として向こう4年間とし、毎年度見直しを行うこととしており、策定準備は、振興計画の素案策定の3月下旬から想定しております。

「地区づくり計画」は、基本構想・基本計画をもとに、村内26地区が主体となり策定するもので、職員は地区づくり推進員として計画づくりに参加させていただく予定です。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

第6次総合振興計画を作るに当たっては、2年間ぐらいで仕上げているんですね。それには「みんなの村づくり集会」そういうのも4回やったり、村民の声が集約され、それから振り返り新聞まで発行され、村民の声がまとめられて、本当に村民と役場職員、行政が一緒になって作り上げた手法で、よくできた計画になっていました。本当によくできたあの計画で、この10年間やってきたっていうのと、本当にいい手法の取り方だと自分では思っています。

今回もそういう形で、同じ手法で、この7次振興計画というのを進めようとしているのでしょうか。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

(総務課長「丸山寛人」登壇)

総務課長（丸山寛人）

基本的な流れとしては同じと考えていただいていると思います。

ただ、手法としては、先ほども申し上げましたが、既にアンケート等は実施しておりますし、それぞれ各団体の皆さんからもご意見を伺っておるという状況です。また昨今、策定委員の公募した経過もございますので、いろんな方から今後も意見を頂戴しながら計画策定を進めていくと。

ただ、前回のようなそういった集会等については、現時点考えてございません。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

これから進めていくには、前は、ある企画会社がリーダーシップをとって進めて、みんなの村民の声、行政の声、良くまとめていったリーダーシップがあったと思うんですね。

今回はそういう指導役というのは村がやるのですか。それとも企画会社が入って、一つの方針を示されるのですか。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

(総務課長「丸山寛人」登壇)

総務課長（丸山寛人）

今回の策定については、企画的な会社は入っておりません。現時点で民間会社の方へデータ整理、

それから、基本的な計画策定の支援をいただく契約はしております、既に実施しております。
そういった状況で計画を策定しているということでございます。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

では3点目の件ですが、26区のこれから地区づくり計画してく中で、これからの本当に8年間なんていうのは集落再編というの、ある程度念頭に置いた計画が必要になってくるのではないかなと。集落が維持できる区とか難しい、そういう与えられた地区もあると思うのですね。そういう中で今言った、地区づくり推進員の行政の人達を交えて、本当にこれからの8年間、そういう形での計画が、本当にみんなが進められればいいなと思います。

できるところは、すぐ再編できなくてもこれとこれは一緒にやろうよとか、運動会とかってのは今ないですけど、ここと一緒にチームを作って、こういう形で参加していこうかというような形で、地区の中で上手にまとまって行って、それからその一つの大きな再編のという方針がじわじわと浸透していけばいいなという、そういう計画も見据えて、地区づくりというのは進めていく大きな7次計画になると思うのですよね。

その点、どういうふうに思われますか。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

(総務課長「丸山寛人」登壇)

総務課長（丸山寛人）

まず、行政職員が地区づくり推進員として地区づくりの計画策定に参加させていただく、これについてはそのとおりでございます。

ただ、今お話いただいたような、地区の再編だとか、そういったものに行政職員が積極的に関わっていくということは現時点考えておりません。ただ、それぞれの地区なり、地区の方からそういったいわゆる支援が必要だと、それから、行政も関わってくれと、そういうご意見等があれば当然、職員としてできる限りの支援はしていくという形になります。

地区づくり計画の中で、今後、特に高齢化と少子化というのは進んでおりますので、これまで同様の計画がそれぞれの地区の中でできるかどうかは、それぞれの地区の中のやり方、それから考え方によるものだと思いますので、また、いろんなご意見を地区づくり担当の方お寄せいただいたうえで、行政としてできることを支援してまいりたいと思います。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

2. スキー場地区の自治活動について

4番 山本隆樹 議員

本当に、コミュニティ活動の参加という形で、その積極的に呼びかけを行って村民同士の交流、コミュニケーションの場を進めて、良い7次計画というか、村の未来をみんなの手で作り上げていこう

という形での、しっかりとした7次を進めていっていただきたいと。これ本当に、この計画8年（4年＋見直し4年）ということで、本当に大きな方針を持ってこの村を本当に自立できる、していける村にしていくための大きな計画だと思うので、その辺、本当に村の未来をみんなの手で作りに上げていくんだってということで、真剣に臨んでいただきたい。また、リーダーシップをとって、その計画を進めていっていただきたいというのが希望です。村長、その辺よろしく願いいたします。

ということで、次の質問でいいですか。

議長（勝山 正）

今のは答弁いららないということでもいいですか。

質問

4番 山本隆樹 議員

はい。

2番の「スキー場地区の自治活動」。これスキー場区というのは進められないかなということでも質問させていただきました。

現在、スキー場地区には、世帯が130で、男性が124、女性が89、213人が登録されています。

観光施設の民営化等、村の大きな変革のときであり、スキー場の皆さんの声が届くよう村としても「スキー場区」への取組ができないかということで質問したときあります。

その答弁として、「村が発足してから、自治区として参加していない地区ということで、改めて組織をお願いすることは難しいと感じている。しかし、村の施策を村全体で進めていくうえで、自治区は必要と考え「スキー場区」の組織化も必要と考えている。」スキー場地区の区については、平成22年、23年、それ以前にも何回か取組をしたとのこと。最終的には実現しなかったということです。「今後、スキー場地区のご意見・ご要望を聞く場を設けて、そのためにどういう方法があるのか、それをきっかけとして「区」という形に繋がっていけばいいと、検討していく。」ということで回答を得ていました。

それでちょっと質問させていただきます。

その後、どう対応を試みたのか、地区づくり懇談会をしませんかというような形で投げかけをされたのかどうか。

また、自治区になっていないため、福祉行政の対応、避難訓練、災害時の対応等、行政の投げかけはどうされているのか。

また3番目に、スキー場地区が求めていることが、区がないことによって村に伝わってこないと。スキー場の組織化を今どう考えているのか。

3点質問させていただきます。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

「スキー場地区の自治活動」ということであります。

平成22年、3年と言いますが、確か平成27、8年頃にも1回声かけをしたかなと記憶をしております。ただ、「スキー場区」も必要と考えているのですが、現に住んでいる皆さんがその気にならないとなかなか難しい問題だなと思っております。

このご質問について担当課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは村長の答弁に補足して、3点についてお答えさせていただきます。

1点目の「これまでの対応」でございます。

議員から令和元年にご質問いただいてから本日までについては、具体的なスキー場地区の方と相談等はしてございません。

2点目の「福祉行政の対応、避難訓練、災害時の対応について」でございます。

民生児童委員さんの配置や看護師さんの高齢者の方への訪問などは、村内同一の対応となっております。また、防災面では今年度、村ぐるみ防災訓練において、スキー場地区の方にも参加いただき、安否確認訓練を実施しました。その際に、災害時の対応についてご説明させていただきました。しかしながら、参加者については少なかったのが現実でございます。

3点目の「スキー場地区の組織化」でございます。

ご指摘のとおり、村内の各地区は、区長さんを始め、役員さんを中心に地区づくり懇談会の開催や、地区づくり計画の見直しなどにより、地区の意見要望を村へお寄せいただいております。また、自主活動も含め、地域コミュニティ活動も進めていただいております。

それぞれの生活が多様化する中で、過去のご意見等からも、現状、組織化は困難と考えておりますが、スキー場地区にお住まいの方から組織化の要望やご意見があれば、積極的に支援してまいりたいと考えています。

村内各地区同様に、近隣住民の日頃からの連携協力体制が災害のみならず重要と考えていますので、行政として、福祉や災害対策、こういった事業については今後も継続してまいります。

（山本隆樹 議員 挙手）

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

避難訓練を実施されたということで、参加者も少なかったということですけど、普通の区だと点呼とか、いろんな形で、それなりの資料をまとめて世帯ごとに大丈夫だ、OKという形で村に報告しているのですが、本当にスキー場地区は難しいというより、人数をどういうふうに点呼されているのか、その辺がどういう形で避難訓練というのをされたのですか。点呼というのはあるのですか。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

今年度のスキー場地区での、いわゆる村ぐるみ防災訓練等兼ねて行った内容でございますが、今議員からご指摘あったとおり、地区体制というのはスキー場地区には整っておりません。したがって、村の担当職員が現地に行きまして、事前に避難のいわゆる誘導の車両による呼びかけを行ったり、事前にこの地区へ集まってほしいということは情報としてお流ししました。

集合した場所についてはスキー場下段の山麓駐車場という形で、そこに職員を配置しまして、そこへ避難をお願いしたという形です。

その他については後の地区と同様ですが、どなたが来たのか、それから何人来たのか、そういったものを職員と共に確認したという内容でございます。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

本当に自治区がないっていうことになると、本当に行政が全て肩代わりしていかなくちゃいけないと思いますね。行政としても、区として、自治区ないところは、そういう形で本当に援助していかなくちゃいけないと思います。

ごみステーションもあそこにあると思うのですが、そういう管理というのは、自治区がないので行政で維持管理しているのですか。

議長（勝山 正）

山寄民生課長。

(民生課長「山寄真澄」登壇)

民生課長（山寄真澄）

ごみステーションの清掃等についてはちょっと把握しておりません。こちらでは行っておりません。でありますので、汚くなったら近所の人でやってくれているのだと思います。

それで、ごみステーション自体の設置について、普通、行政区でありますと、区の方で整備すると。村の方から、基本的には区に整備費の補助をするということで、限度額10万の補助をしているのですが、ちょっと大変申し訳ないのですが、スキー場のごみステーションの設置について、それ以外の話になってしまうかもしれないのですが、ちょっとどうなっているかというのは分からないという、今あるものについてはそういうことであります。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

今の各地区にあるのは、村が対応されて地区で作って上げたものだと思うのですが、スキー場にあるごみステーションというのは、スキー場の持ち物なのですか。村の持ち物、どちらですか。

議長（勝山 正）

山寄民生課長。

(民生課長「山寄真澄」登壇)

民生課長（山寄真澄）

大変申し訳ありません。ちょっとわかりません。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長 (勝山 正)

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

私、シルバーのことでごみステーションの方に行ったときに、やっぱり山の方から、持って行くところがないんだとかちょっと質問を受けていたり、各地区に、スキー場にもそういうステーションがあるよっていう形でお話したことあるのですが、やっぱりそこへ持って行っていいものなのかどうかどうも周知されていない人もいらしくて、そういうところは何かどうも、やはり一つの自治区となっていないために、やっぱりちょっとアナウンスが薄くなっているところも、行政の役目として一つ役割伝えていった方がいいんじゃないかなと思うのですが、いかがですか。

議長 (勝山 正)

山本議員、いいですか。

4番 山本隆樹 議員

はい。

議長 (勝山 正)

今の質問内容を見ますと、通告外の質問になっているというふうに思っております。ということで通告に沿った質問に終始していただくようお願いしたいと思います。

再質問

4番 山本隆樹 議員

はい。

では、3番目の「スキー場区の組織をどう捉えているのか」ということで回答ありましたが、今、スキー場地区というのは、世帯が130、男性124、女性89、213人の中で、そのダイヤパレス木島平、トリート信州木島平に住んでいる人数、世帯というのは分かりますか。

議長 (勝山 正)

丸山総務課長。

(総務課長「丸山寛人」登壇)

総務課長 (丸山寛人)

今のご質問でございます。

まず、ご質問の基準日とこちらの基準日がちょっと合致するかはありますが、おおむねそれぞれの施設合わせて70名から80名と想定してございます。ただ、これはあくまでも住民登録そのものをベースにした考えでございますので、それ以外住まれている方も多々いるのかなという認識もあります。したがって、この施設両方で何人という位置づけは、現時点、把握はしてないという形で解釈していただいていいかなと思います。

また、世帯数についても広報等の配布枚数だとかそういったものはありますが、このダイヤパレス、トリート信州等で整理はしてございませんので、よろしくお願ひします。

議長（勝山 正）

一点、またいいですか。

4番 山本隆樹 議員

はい。

議長（勝山 正）

数値を求める質問は通告したものに限るということでありますので、ここで急遽、数字とかについての質問は避けてほしいというふうに思います。

再質問

4番 山本隆樹 議員

はい、分かりました。

本当に「区」とか「集落」というのは歴史的に形成されたり、共同意識や領域認識等によって結びついた集落です。だから、今みたいにスキー場地区ということになると、そういう伝統的な神楽とか、そういう祭祀とかお祭りとかないので、なかなかその共同で区を作り上げようとかというのは難しい本当に、対応になるかなと思いますけども、その中で本当に一つ、言われたように、投げかけ、地区の懇談会とか、村からの報告みたいのを一つ、やはり投げかけてみて、それなりの意見を聞いた、そういうコミュニケーションを持つ場というのはいっぱいあってもいいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長（日墓正博）

おっしゃるとおりかなと思いますが、そもそも呼びかけをどういうふうにするかというのはなかなか難しい問題でありますし、また、住んでいる皆さんの状況、条件とかかなり異なりますので、どういう形がいいのか、またちょっと検討させていただきたいと思いますが、いずれにしても、元々村に住んでおられてスキー場地区にも行っている、そういう方もいらっしゃいますので、前はそういう皆さん中心に声掛けをしたわけですが、なかなかそれ以外の皆さんとはまとまらなかったという状況があります。元々村に住んでいる皆さんを中心に、また声かけてみるのがいいのかなと思っていますので、よろしくをお願いします。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

3. ファームス木島平の未来

4番 山本隆樹 議員

3番目の「ファームス木島平の未来」ということで、質問いたします。

令和9年新たな施設と事業者による運営開始に向け、令和6年は、実施方針と募集要項の公表で進めていると認識しています。

そこで質問させていただきます。

再生準備の検討委員が立ち上がり会合が開かれています。その近況報告を伺いたい。これ、前の議員も質問されていましてのでちょっと重複するかもしれませんが、再度お願いいたします。

今までコンサルタントから出された提案、地域活性化起業人からの助言というのは、ファームス木島平のことについての助言、特に参考にする助言というのはあったのでしょうか。それと、また新たな施設とはどう捉えているのかを伺いたい。

特に、私として視察で見てきた調布にある「ランチ調布」のように、民間事業者が市有地を借り、施設を建設、所有者として管理運営を行い、市や民間事業者にテナントとして貸し出していました。これ、本当に公民連携の施設です。そこまではちょっと木島平も難しいとは思いますが、運営を希望する候補者に手を挙げやすくするためにも、公共的な機能の施設が求められます。ランチ調布の施設内に、市の運営のコミュニティや高齢者健康増進の場を設け、市民の憩いの場になっていました。

村として、多世代が寄り付いてもらえる場所の一案として、健康の拠点施設とすると前にも提案しましたが、健康村への入口として、体のケアができるジム、マッサージサロンの施設を設ける、日頃の体調管理ができる健康拠点として、健康に繋がる施設の取組ができないか。

これ、在宅福祉の村の一環としての施設、あと近隣市町村とのコミュニケーションの場ともなります。雨、雪が降っても遊べる施設、子供に、特にママ友とか、近隣の大きな場所になると思います。また、雪との共存、クロスカントリースキーですね、あそこに1周してこいみたいな形でコースができるのではないか。夏のマウンティングバイクのコースをあそこで作ろうという新聞の記事の中に、コースを作るような案が出ていました。冬はそこはバイクは走れないので、そこをクロスカントリーのみんなちょっと行って履いて1周してきて、一つの健康管理になる場所にするとか、そういう新たな施設の案として検討できないかを質問したいと思います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

それでは「ファームス木島平の未来について」ということであります。

今進めております再整備事業は、道の駅ファームス木島平が抱える建物と運営面での課題を解決することを目的に進めております。その整備にあたっては、財源を確保しながら村民益がある道の駅として必要最低限の機能に絞っていきたいと考えております。

ただ、先ほどありましたとおり、マウンテンバイクであるとか、クロスカントリーコースであるとか、そういう比較的経費のかからない、そういう形の使い方は、当然また一緒に進めることができるというふうに思います。

議員ご質問の1点目の「検討委員会の方の状況について」は、昨日、江田議員の答弁で申し上げたとおりであります。

細部について産業企画室長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

本山産業企画室長。

（産業企画室長「本山 等」登壇）

産業企画室長（本山 等）

私から村長の答弁に補足してお答えいたします。

1点目の「検討委員会での委員からのご意見の内容」でございますが、昨日、江田議員からの質問

でお答えしたとおり、図書館の機能、それから、天候に関係なく利用できる子供の遊び場や農作物の収穫体験などができる機能を備えたらどうかなどのご意見をいただいております。

2点目の「コンサルタントからの提案、地域活性化起業人からの助言について」でございます。

令和3年度に道の駅の運営改善を図るため、一般社団法人 全国道の駅支援機構に運営改善計画策定業務を委託しております。それで、道の駅の現状分析と収益化に向けた施策を提案いただいております。

この内容につきましては、当時の議会で報告させていただいておりますが、提案のあった道の駅の収益化に向けた施策の概要を申し上げますと、次の3項目になります。

1点目が直売所たる川と統合した産直事業の展開。

2点目がおにぎり、釜飯など米に特化した飲食の提供。

3点目、現在のマルシェホールをワーケーション施設として改修。

以上、3項目であります。

地域活性化起業人からは具体的な助言はいただいております。

3点目の「新たな施設とはどう捉えているのか。一つの案として、健康拠点施設にしたらどうか」ということについてお答えいたします。

議員ご提案の健康拠点にしたらどうかとの提案でございますが、複数の公的な機能を備えた施設を目標とする場合、今、村が所有している農村交流会や若者センター、保健センターなど公共施設全体のあり方を検討する必要があります。また、複数の機能を備えた施設にしようとする施設規模、事業費も相当大きなものとなりますので、その整備に当たっては、道の駅として必要な機能に絞って整備をしてみたいと考えております。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長 (勝山 正)

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

「地域活性化起業人からの具体的な助言はありません」とのことですが、村の大きな課題の一つで、当然、地域活性化起業人としてのこの村の道の駅のあり方、そういうものは、そういう思いは何か聞いてないのでしょうか。本当に助言がないというだけで、何かこうしたらいいんじゃないのとかあるような気がするんだけど、何にもないのですか。

議長 (勝山 正)

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長 (湯本寿男)

地域活性化起業人につきましては、主には観光と観光振興局の業務として協定を結んでおります。

道の駅の活性化に関しては、協定の業務に入っておりませんので、具体的には提案をしていただけないという状況でございます。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長 (勝山 正)

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

あと、2番目の道の駅支援機構から本当に、まだまだ集客力あるよ、可能性があるという計画をやっぱり判断されていますよね。それと、それに道の駅支援機構が策定したその調査、交通量、近隣の商圈のマーケット、そういう報告も上がっていると思うのですが、その報告をどう捉えているのですか。

議長（勝山 正）

本山産業企画室長。

（産業企画室長「本山 等」登壇）

産業企画室長（本山 等）

道の駅支援機構からは、道の駅があるその立地条件から、道の駅が有するポテンシャルを示されておりまして、売上げで1.6億円というものが示されております。そういったものをベースに、これから整備計画を定める基本にもしていきたいと考えております。

（山本隆樹 議員 挙手）

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

3番目の質問の中で「市場性と採算性を鑑みながら、道の駅としての必要な機能に絞って整備したい」というその答弁ですが、本当にそれよりも、村としてこういう施設を作って、コミュニティの場として賑やかして、そうするから、民間の力を貸してくれ、提案してくれと言って公募した方がいいのではないかと。それがそのサウンディング調査という村の姿勢が伝わり、本当に良いアイデアが引き出せ、積極的な道の駅の提案に繋がっていくのではないかなと自分では思っています。

本当に、これからスキー場の民営化で、ロマンスの神様、美容、健康、ウィンタースポーツ、それとこれから民営化による馬曲温泉、その玄関口ともなるわけです。

そういう名乗りを上げてくれた民間の業者のためにも、そういうメリットが人を引きつける施設を作るというのは、やはり採算性よりも、本当に条件が揃って、提案の中にも図書館だとか、村民の交流プラザにしたらかどうか、待ち合わせ場所、会合ができる場所、本当にそういうスポーツケアができ、子供からお年寄りまでの健康の拠点にもなる施設を作る、その結果、賑わって、民間経営にも好循環に繋がりと、利益に繋がっていくと。

本当に全体から見ると、ファームス木島平の未来は明るいというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

これまでの道の駅ファームス、農の拠点施設について、いろんな議論の中で一番大きな課題になっているのが、やはり施設の維持管理に関する経費、村の財政負担ということであります。

そのような話の中で、こうして基本的な考え方を示してきたわけですが、収益に繋がらない、言ってみればコミュニティ施設にしていけばという話はまた元に戻っていくような話になりますので、その辺はまた一旦整理をさせていただきますが、いずれにしても、基本的には道の駅ということですが、より多くの皆さんが集まってくる仕組み作りを提案していただくということで、村側の一つの目的とすれば、子供たちがそこで遊べる、親子で遊べる、そういう施設にはしていきたいと考えております。それプラス民間でということでもありますし、また言ってみれば、その道の駅を拠点にして、敷地が広いわけでありまして、そこにできれば民間などの違う施設が誘致できればいいのではないかなと将来的には考えているわけでありまして。

(山本隆樹 議員 挙手)

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

本当に、民間経営の皆さんにも期待ができる玄関口、本当にこれから背負って立つ民間の人たちにも、好循環に繋がるような施設として、これから本当に作り上げていっていただきたいという願いを込めて、今回の質問を終わらせていただきます。

議長（勝山 正）

以上で、山本隆樹 議員の質問を終わります。

(終了 午後2時43分)

議長（勝山 正）

本日の日程は終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦労様でした。

(散会 午後2時43分)